

《平成28年度》

1 設定値の達成状況

(1) 医療機能等指標に係る数値目標

項目	前年度	平成28年度		
	決算	設定値	決算	達成状況
紹介率	63.2%	65.0%	66.9%	○
逆紹介率	52.3%	40.0%	54.1%	○
救急患者数	9,757人	10,200人	9,605人	
手術件数(件)	3,788件	3,810件	3,804件	
患者さんアンケートによる地域貢献度	80.6%	74.9%	74.9%	—
患者さんアンケートによる当院推薦度	88.0%	84.8%	84.8%	—
退院調整実施率	—	7.5%	7.7%	○
病診連携高度医療機器利用件数	1,654件	1,850件	1,815件	

(2) 経営等指標に係る数値目標

項目	前年度	平成28年度		
	決算	設定値	決算	達成状況
経常収支比率	99.3%	97.7%	99.5%	○
医業収支比率	94.2%	93.6%	95.3%	○
薬品費対医業収益比率	16.9%	14.9%	14.7%	○
診療材料費対医業収益比率	11.3%	12.0%	12.0%	○
給与費対医業収益比率	57.0%	59.5%	58.5%	○
病床利用率	78.7%	84.6%	85.9%	○
1日平均入院患者数	409.4人	440.0人	446.6人	○
1日当り入院診療単価	53,059円	53,500円	53,375円	
1日平均外来患者数	937.3人	960.0人	970.8人	○
1日当り外来診療単価	15,835円	14,500円	14,519円	○
医師数	89人	90人	90人	—
看護師数	444人	457人	457人	—
看護師の離職率	5.4%	6.0%	5.9%	○

※達成状況が「—」の項目については、平成29年3月に策定した新改革プランにおいて新たに追加した指標の中で、作成時に平成28年度の実績が出ていたため、実績を設定値としたもの。

【自己評価】

平成28年度は、CT装置や白内障手術装置の更新や、血液培養自動分析装置の増設、また、富士保健医療圏におけるがんの専門病院として、地域がん診療病院の国指定を受けるなど、提供する医療の充実を図ることにより、病床利用率、1日平均入院患者数、1日平均外来患者数については目標値を上回ることができた。1日当り外来診療単価は目標値を上回ったが、1日当り入院診療単価は前年度より上昇したものの、目標値には届かなかった。経営指標について、経常収支比率、医業収支比率等は目標値を上回ることができたが、更なる収支の改善に向け、取組を進めていきたい。

2 施策の実施状況

【自己評価】

基本施策と個別事業の1年間の取組状況を、計画に照らし合わせて5点満点で評価した。

基本施策		評価
事業計画		
1 患者サービスの向上		3.7
(1) 患者満足度の向上	3.7	3.7
・患者さんアンケートの結果を評価に反映させたい。		
(2) 情報発信の充実	3.7	3.7
・病院ウェブサイトは、古い情報がそのままのものがあつた。		
2 良質な医療の提供		3.5
(1) 医療の質の向上	3.4	3.4
・高度急性期に関するアンケート調査ができなかった。		
(2) 地域連携の推進	3.2	3.2
・「ふじのくにねっと」、「連携安心カード」の活用不足。		
(3) 人材育成・確保に関する取組	3.8	3.8
・医師の確保は出来ているが、専門医不足で、診療加算取得が取れていない。 ・医師確保対策にA評価の事業は無いが、医師不足が続いている状況で、医師数の少ない地域であるにもかかわらず、増員できている点は評価できる。 ・医師確保対策は、同規模の近隣病院の状況を見ると、十分評価できると思われる。		
(4) 安全・安心な医療の提供	3.6	3.6
・災害拠点病院機能の充実においては、DMAT活動に積極的に取り組んでいる。		
3 経営基盤の強化		3.2
・原価計算、ベンチマークシステム		2.3
・中央病院における、収入・支出の状況の細分化と把握ができている。 ・原価計算システムの運用を開始できなかった。		
(1) 収入の確保	3.4	3.4
・未収金における発生状況や現状の分析の不足（年間の未収金金額の提示等）。 ・未収金対策については、成果として現れてから評価したい。 ・保険請求においては、診療報酬改定に伴う施設基準の新規取得により、1.5億円の増収となった。 ・未収金回収委託の準備に取り組んだ。		
(2) 支出の抑制	3.6	3.6
・医薬品費において、後発医薬品指数が1月に80%となった。 ・光熱水費において、ESCO事業を実施した。 ・後発医薬品指数の向上。		
(3) 病院施設の運用	3.5	3.5
・機器の老朽化により、保健所からの指導に対して、対策案の提示が出来ていない。 ・まだ不足の部分はあるが、進んでいる。 ・和式トイレ改修を行った。		
経営形態		
1 経営形態の考え方		2.7
・経営懇話会を開催し、新公立病院改革プランに反映させた。		

特記事項

- ・全体的に評価は上向きであるが、十分な収益の増加が得られていない。

【外部委員による評価】

(1) 患者サービスの向上について

評価	評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	未回答
	2人	3人	2人	0人	0人	0人

主な意見

- ・ 全ての項目で十分な取組がなされている。
- ・ 待ち時間調査及び対策への取組内容及び情報発信を積極的に行っていることは評価できる。
- ・ 接遇研修1回130名で十分と考えてよいのか。

(2) 良質な医療の提供について

評価	評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	未回答
	2人	4人	1人	0人	0人	0人

主な意見

- ・ 一部事業を除き、計画が着実に推進されている。
- ・ 平成27年度と比較して、A評価が増えている。(地域連携の取組、紹介率向上)
- ・ 「良質な医療の提供」に向けて、各種の施策が展開されていると思われる。
- ・ 地域医療支援病院となり、今後益々病診連携を進める観点から、連携安心カードの利用促進を図っていただきたい。
- ・ 「ふじのくにネット」の加入率が、県全体でも進んでいない。また、市によっては推進しないとしている所もあるが、利用価値、今後の予測を踏まえて検討の余地があると思われる。

(3) 経営基盤の強化について

評価	評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	未回答
	1人	5人	1人	0人	0人	0人

主な意見

- ・ 経常収支比率は、ほぼ100%を維持しており、目標を大幅に上回っている。また、入院単価を除き、すべての数値目標を上回っている。
- ・ 在院日数や退院支援の項目で積極的に行ったことは評価できるが、原価計算システムの運用が前年度と同様C評価である。
- ・ 病床利用率の増加、退院支援加算の取得、施設基準の新規取得、ジェネリック使用率の増加、ESCO事業の実施は評価できる。
- ・ 今後は、地域医療支援病院になったことで、患者の動向がどう変化するか見極めて、それに対する対応を考える必要があるのではないか。
- ・ 地域の基幹病院として、質の高い医療の提供と患者サービスの向上を図りながら経営効率化が求められているが、診療機能の維持や業務の改善はもっと取り組んでも良いのではないか。

(4) 経営形態について

評価	評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	未回答
	0人	2人	4人	1人	0人	0人

主な意見

- ・ 2025年人口動態等も考え、今後の富士市立中央病院の経営について検討できていた。
- ・ 現時点では、具体的議論に至っていないように思われる。今後の展開に期待したい。
- ・ 現時点では現在の経営形態を継続するしかないと思われるが、他の方法との比較・検討が行われていない。

(5) 総評

病院の機能評価が充分なされており、各取組を実践することで充分な改善が図られていくと思われる。また、医師数も着実に増え、事業計画に確実に取り組むことのできる体制が整ってきたと受け止めている。A評価が14項目、C評価が6項目、その他がB評価で、平成28年度は事業計画の目標達成に向けて取組が行われたと考えられる。

事務部門のみではなく、医師・看護師も含めたスタッフ全員で事業計画を共有し、これに向けて取り組む意識改革を行うことが必要である。また、地域における信頼感が向上している中、地域医療構想における中核的役割を担うべく対応をしていくことを期待する。

個々の事業計画に関し、極力可視化した「指標」を設定すべきである。成果が常に「見える」状態にしておかないと、活動は長続きしないものとなりがちであり、経営改善に向けた取組を院内に掲示するなどして、職員だけでなく来院者にも取組をアピールすることも必要と思われる。